

## 潮干狩り列車

豊前から中津、国東付近の海岸は、遠浅でアサリが豊富でした。現在は、都会のスーパーで売られるために、漁業者が乱獲して激減の憂き目にあっています。そこで現在、各県水産関係者は、一所懸命に増殖に努めています。主たる回復方法は、砂の投入、漁場づくり、被覆網の設置、竹シバの設置などです。

その遠浅に、竹林から伐採した竹を裂いて刺すとアサリが随分と増加するのですが、埋め込んだ竹の周りの水流が止まって、稚貝が定着するというメカニズムです。網を設置するのは、エイなどの魚が食べないようにすることです。

ともかくは、今は、激減したアサリの回復に努める時代です。

この回復に皆が協力することから、この夢は始まります。

①現在進めているアサリ回復の一連の作業を「潮干狩りの夢プロジェクト」と呼びましょう。

都会の子どもが作業に参加して一緒にアサリ回復に協力します。彼らには、作業のついでにアサリを採る資格を与えます。

②アサリが回復した暁には、地元の子どもたちはもとより、北九州市や福岡市方面から、列車を仕立てて遠浅の海岸でアサリ狩りを楽しませます。

「潮干狩り列車！」

一緒に作業をするだけで、子どもたちの目が輝いてきます。教育効果、自然体験が豊かになります。誰しも、生涯にわたって、塩の香りがする海岸でどろんこになって潮干狩りをした経験とすがすがしさを思い出すことでしょう。日本の自然の恵みをじかに体験すること、それは人生の宝物となるでしょう。

③漁師の方々は、乱獲してまで市場に出すのではなく、潮干狩りにくる人々の世話をして、採れたアサリはグラムいくらかで買ってもらうことで収入を確保します。車でも来ますから、東九州道建設への弾み、活用への弾みともなります。

④広大な海辺がそのまま観光地と化していきます。

⑤一方、山は、郊外のような竹林のはびこり！ 根が浅いために滑りやすいそうです。竹シバは、山を保全するのに役立ちます。

